

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷七第

行發日一月八年七正大

論說

我戰時利得稅ヲ論ズ(二).....

法學博士

小川郷太郎

遊民考(二).....

法學博士

瀧本誠一

相續稅批評ノ重點(三).....

法學博士

神戸正雄

さんぢかりずむ概論(二).....

法學士

河田嗣郎

植民地統治ノ形式ニ就テ(二).....

法學士

山本美越乃

黃宗羲ノ政治經濟思想(二).....

法學士

小島祐馬

露國ニ於ケル新まゝるくす主義(二).....

法學士

米田庄太郎

時事問題

支那ノ金本位問題ニ就テ(二).....

法學博士

戸田海市

救濟事業ノ調査ニ就テ.....

法學博士

神戸正雄

救濟調査會ニ就テ.....

法學士

櫛田民藏

雜錄

飯島學士譯經濟學原論ヲ讀ム.....

文學士

高田保馬

戰費調達問題(二).....

法學士

小島昌太郎

赤穂ノ鹽田(二).....

法學士

本庄榮治郎

通貨膨脹ト物價騰貴.....

法學博士

神戸正雄

黃宗義ノ政治經濟思想 (二、完)

小 島 祐 馬

三

政治ハ天下萬民ノ爲メノ政治ナラザルベカラズトスル宗義ノ思想ハ大體以上述ブル所ノ如キモノデアルガ、此政治ノ目的ヲ最有效ニ達センガ爲メニ、彼ハ更ニ學校ヲシテ直接君主及ビ群臣ノ執行スル政治ヲ指導セシメントスルモノデアアル。政治ノ基礎ヲ道德ニ置キ教育ヲ以テ政治上最高尙ナル事業ト考フル支那ニ在リテハ、一般教化ノ上ニ就イテハ固ヨリノコト、政治運用ノ上ニ於イテモ何人ト雖學校ヲ尊重セザル者ハナキモ、而モ其政治ノ運用上トイフモノ、唯學校ニ於イテ國士ヲ養成シ、以テ將來政治運用ノ局ニ當ラシメントスルマデニテ、實際政治ノ運用トハ間接ノ關係ヲ有セシムルモノニ過ギヌ。然ルニ宗義ノ考ハ之ト少シク異リ、固ヨリ學校ハ士ヲ養フ所以ニシテ間接ニ政治ノ運用ニ關係ヲ有セシムル者トスル點ニ於イテハ從來ノ考ヲ是認スル者デアアルガ、併シ僅ニコレバカリガ學校ノ職責デハナク、學校ハ更ニ他ノ一面ニ於イテ天下ノ是非ヲ代表シ、之ニ由リテ直接ニ政治ヲ指導セザルベカラズトスルガ彼レノ意見ノ特徵デアアル。彼レノ考ニヨレバ、三代以下天下ノ是非ハ一ニ朝廷ニテ定マツテ居ルガ、併シ『天子ノ是トスル所未ダ必シモ是ナラズ、天子ノ非トスル所未ダ必シモ非ナラズ。天子亦遂ニ敢テ自ラ非是ヲ爲サズシテ其非是ヲ學校ニ公ニセザルベカラズ』⁽¹⁶⁾トスルノデアアル。

然ラバ學校ノ定ムル是非ニヨリテ如何ニシテ直接政治ヲ指導スルカト云フニ、先ヅ學校ノ組織ヲ一言セバナラス。彼ニ從ヘバ京師ニ唯一ツアル大學ニ在リテハ、祭酒即チ大學總長ハ當世ノ大儒ヲ推擇シ、其地位ノ重キコト宰相ニ等シクシ、或ハ宰相ノ官ヲ退キタルモノ之ニ任ゼラルルコトトスル。地方ニ在ル郡縣ノ學校ニ於イテハ、之ヲ主ル學官ハ任命ニヨラズシテ郡縣ノ公議ニヨツテ名儒ヲ招聘シ、其資格ハ布衣ヨリ宰相ノ退職セル者ニ至ル迄何人ニテモ差支ナシ。唯其人少シニテモ清議ニ違フコト有ラバ諸生共ニ起ツテ之ヲ易フルコトヲ得ルコトトシテ居ル。ソシテ此等ノ學校ニ於イテ政治ヲ指導スル方法ハ、先ヅ大學ニ在リテハ毎月朔日天子ハ宰相六卿諫議ノ諸官ヲ率キテ大學ニ臨幸シ、祭酒ハ南面ノ位ニ即イテ政治ノ理想ヲ講ジ、天子モ亦弟子ノ列ニ就キ其講義ヲ聽ク。而シテ若シ當時ノ政治ニ缺失アラバ祭酒ハ直言シテ諱ムコトガアツテハナラストシテ居ル。次ニ地方ノ政治デアルガ、コレハ郡縣ニ於イテハ毎月朔ト望トノ二回一邑ノ縉紳士子ヲ會シテ學官政治ノ學ヲ講ジ、郡縣ノ官吏モ弟子ノ列ニ就キ北面再拜シテ講義ヲ聽ク。郡縣ノ官吏ニ政治上ノ缺失アラバ小ハ則チ糾繩シ、大ナルモノハ鼓ヲ打ツテ衆ニ鳴ラスノデアル。尤僻郡下縣デ學官ニ職ニ名儒ヲ得ルコト能ハズシテ、郡縣官ノ學行ガ學官ヨリモ過グルモノハ、朔望ノ會ニ郡縣官ガ南面シテ學ヲ講ジテ可イ。併シナガラ若シ郡縣官ノ少年ニシテ實學無キ輩ガ、妄リニ自ラ學官ヲ壓シテ之ニ上ラントスル如キコトアラバ、學生等ハ爭ウテカ、ル郡縣官ヲ排斥スベシト爲シテ居ル。⁽¹⁷⁾

由來支那ハ輿論ヲ重ンズル國柄デアルガ、其所謂輿論トイフ者ハ常ニ賢者ニヨツテ代表サルル

モノト考ヘラレテ居ル。何トナレバ賢者トハ道ヲ體得シタ人ノコトデアル、而シテ其所謂道トハ自然界人事界ヲ貫通スル所ノ法則デアル。之ヲ人事界ノミニ就イテ言ハバ『天ノ命ズル之ヲ性ト謂ヒ。性ニ率フ之ヲ道ト謂フ』⁽¹⁸⁾ノデアル。サレバ道ヲ體得シタル者ハ萬人ノ同ジク然リトスル所ヲ然リトスル人デアル。即チ賢者ノ意見ハ健全ナル輿論ノ一致スル所デアルト解釋スルノデアル。且既ニ道ノ太原ガ天ニ在ル以上、支那ニ於イテハ世ノ中ニテ最權威アルモノハ道デアル。道ノ前ニハ天子ト雖屈服セザルヲ得ナイコトトナツテ居ル。宗義ガ一世ノ大儒名儒ヲ集メタル學校ニ於イテ天下ノ是非ヲ定メ、以テ政治ノ運用ヲ指導セントスルハ、亦畢竟學校ヲ以テ道ノ存スル所、健全ナル輿論ヲ代表スル所ト爲シ、政治ノ運用ニ從事スル者、何人ト雖其意見ニ違背スルコトヲ得ズト考フルガ爲メデアル。蓋シ彼レノ所謂學校ハ恰モ代議制ニ於ケル議會ノ地位ニ相當スルモノト見ルコトガ出來ヤウト思フ。

宗義ハ更ニ法ニ關シテ『治法アツテ而ル後ニ治人アリ』⁽¹⁹⁾トイフコトヲ言ツテ居ル。一見法治萬能ヲ主張スルガ如キモ必シモ然ラズ。彼ハ『三代以上法有リ、三代以下法無シ』⁽²⁰⁾トモ言ツテ居リ彼レノ所謂法トハ即チ先王ノ法ノ謂ニシテ世ノ所謂法ニ非ズ。其意ニ謂ヘラク、三代ノ法ハ天下ヲ天下ニ藏スルモノデアル、天下萬民ヲ教養スルガ爲メニ立テタル法デアル、法愈陳ニシテ亂愈作ラズ、所謂無法ノ法デアル。後世ノ法ハ天下ヲ筐篋ニ藏スルモノデアル、君主ガ自己ノ私利ヲ計ランガ爲メニ立テタル法デアル、法愈密ニシテ天下ノ亂即チ其中ニ生ズ、所謂非法ノ法デアル。荀子ナドハ治人アツテ治法ナシトイヘルモ、非法ノ法天下人ノ手足ヲ桎梏シテヨリ、假令能

(18) 『中庸』首章

(19) 原法

(20) 原法

治ノ人アルモ牽挽嫌疑ノ顧盼ニ勝ヘズ、施設スル所アルモ大ニ其力ヲ用フルコトヲ得ナイ。先王ノ法ニシテ在ラシメバ法外ノ意モ亦其間ニ存シ、其人是ナラバ以テ大ニ行ハルベク、其人非ナルモ深刻羅網ノ弊ニ落ナズ。故ニ『治法アツテ而ル後ニ治人アリ』トイフノデアルト。⁽²¹⁾ 彼ハ政治上ノ大事件ヲ大學ニテ行ハシムルコトスレバ、朝廷ノ上閭閻ノ細、漸摩濡染、詩書寬大ノ風アラシムルコトガ出來ルトイツテ居ル程デアツテ、勿論所謂法治主義ヲ謳歌スルモノデハナイ、寧ロ反對ニ此等ノ語ニヨツテ所謂法治主義ノ缺點ヲ非難シタモノト解セナケレバナラス。彼レノ所謂無法ノ法トハ蓋シ自然ノ法則ニ本ツク法ト解スベキモノデアラウ。近儒章炳麟ガ非黃一篇ヲ草シ、⁽²³⁾ 宗義ノ治人アツテ治法無シト言フ考ハ、韓非ノ如キ法家者流ノ思想ニ類スルモノナリトテ之ヲ謗ツタノハ、大ニ見當ヲ誤ツタモノト言ハナケレバナラス。

四

政治ノ實質ニ就イテハ宗義ハ教ト養即チ教化ト經濟トノ二者ヲ其主ナル者ト爲シテ居ル。即チ『天ノ斯ノ民ヲ生ズルヤ、教養ヲ以テ之ヲ君ニ託ス』ト言ツテ居ツテ、先王ノ法ナルモノハ此人民教養ノ方法ヲ定メタルモノニ外ナラズトスルノデアル。曰ハク『二帝三王天下ノ養無カルベカラザルヲ知り、之ガ爲メニ田ヲ授ケ以テ之ヲ耕サシメ、天下ノ衣無カルベカラザルヲ知り、之ガ爲メニ地ヲ授ケ以テ之ニ桑麻ヲ植エシメ、天下ノ教無カルベカラサルヲ知り、之ガ爲メニ學校以テ之ヲ興シ、之ガ爲メニ婚姻ノ禮以テ其淫ヲ防ギ、之ガ爲メニ卒乘ノ賦以テ其亂ヲ防グ。此レ三代以上ノ法也』⁽²⁴⁾ト。然ルニ後世ニ及ビ授田ノ法廢レテ民田ヲ買ヒテ自ラ養フニ至リ、猶賦稅ヲ以

(21) 原法

(22) 學校

(23) 『學林』第二冊

(24) 原法

テ之ヲ擾シ、學校ノ法廢レテ民蚩々トシテ教ヲ失フニ至リ、猶勢利ヲ以テ之ヲ誘ウテ居ル。是レ亦不仁ノ甚シキモノトイツテ居ル。⁽²⁵⁾サレバ彼ハ教ニ就イテハ先ヅ學校ヲ盛ニシ、イカナル寒村僻地ニモ經師蒙師ヲ置キテ教育ヲ普及セシメ、且社會教育トシテ鄉飲酒ニ有德ノ人ヲ尊ビ、鄉ノ先賢ノ祠ヲ祀リ、無益有害ノ圖書ノ刊行ヲ禁ズルナド、種々ノ方法ヲ講ジテ居ルガ、茲ニ此等ヲ詳述スルコトハ姑ク措キ、以下專ラ彼レノ養卽チ經濟ニ關スル意見ヲ述ベテ見ヤウト思フ。

經濟上ニ於イテ宗義ハ先ヅ支那古代ノ土地均分政策トモイフベキ井田ノ法ヲ復活シテ窮民ヲ救濟セントスル者デアアル。何故ニ土地均分政策ガ必要デアルカトイフ根本論ニ就イテハ彼ハ其書中全ク述ブル所ナキモ、是レ恐ラク此問題ハ古來多クノ學者ニヨツテ論シ盡サレタル所ニシテ、且屢種々ノ形式ニ於イテ實行セラレタルコトサヘアリ、今ハ理論ヨリモ實行ノ方法如何ガ問題デアルト考ヘタガ爲メニハ非ザルカ。現ニ彼ハ金貨銀貨ノ廢止ヲ議スル條ニ於イテ、金銀貨ヲ廢スル利益ノ一トシテ『甚貧甚富ノ家無カラシムルヲ得ル』⁽²⁷⁾トイフ事ヲ舉ゲテ居ル。之ニ由ツテ觀ルモ貧富懸隔ヲ防グハ經濟政策上自明ノ道理トシテ敢テ之ニ論及セザリシモノナルコトヲ推知スルニ足ル。彼レノ土地ニ關シテ行ハントスル分配政策ハ大要次ノ如キモノデアアル。

古來井田ノ必ズ復スベカラザルヲイフ者蘇洵ヨリ詳ナルハ莫イガ、洵ノ憂フル所ハ土地ノ經界タル道路水道ノ制數百年ノ力ヲ窮ムルニ非ザレバ古ニ復シ難シトイフニアルモ、此ノ如キハ抑制度ノ末ニシテ井田ヲ行フ者ノ急トスル所ニ非ズ。尤井田ノ制ヲ探ルトイフモ董仲舒以來言フ所ノ限田均田ノ如ク現ニ所有セル富者ノ田ヲ奪フハ宜シカラズ。蓋シ古ノ聖王方ニ田ヲ授ケテ民ヲ養

(25) 學校
(26) 學校
(27) 財計一

ツタ。今民自ラ有スル所ノ田ヲ法ヲ以テ奪フハ、是レ田ヲ授クルノ政未ダ成ラズシテ田ヲ奪フノ事先ヅ見ハルルモノデアル。聖王ノ法ハ一ノ不義ヲモ其間ニ挿ムコトヲ許サヌモノデアル。然ラバイカニシテ井田ヲ行フコトヲ得ルカトイフニ、カノ衛所ノ屯田ヲ見レバ井田ヲ復シ得ル所以ガワカル。當時屯田毎軍田五十畝ヲ撥ス、是レ古ノ百畝ニ當ル、即チ周ノ時一夫田百畝ヲ受クルニ同ジ。徵稅ノ方法ハ五十畝ヨリ軍用トシテ十二石ヲ徵ス、亦周ノ鄉遂ノ地ニ貢法ヲ用フルニ相當ス。コニ井田ノ法トイフモノ即チ此屯田ノ制ヲ擴張シテ廣ク天下ニ行ハントスルマデニテ至極簡易デアル。今天下屯田ノ現在額ガ六十四萬四千三百四十三頃(一頃ハ即チ百畝ナリ)アル。之ヲ萬曆六年天下ノ實在田土七百〇一萬三千九百七十六頃二十八畝ニ比スレバ、屯田ノ面積約其十分ノ一ニ居ル。サレバ授田ノ法ノ現ニ行ハレテ居ラヌノハ特ニ九分ノミデアル。一ニヨツテ之ヲ九ニ推スニ亦未ダ行ヒ難カラザルヤウニ思フ。況ンヤ田ニ民田ノ外官田アリ、官田ハ人民ノ私有ヲ許サザル者ニテ其面積各州縣ニテ其十分ノ三ハアリ、今之ニ屯田ノ面積ヲ加フレバ民ノ私有ニ歸セザル田現ニ全耕地ノ十分ノ四ハアリ。今天下ノ人口一千〇六十二萬一千四百三十六、天下ノ全耕地ヲ毎戸五十畝ヅツ均分スルトシテ尙百七十萬三千二百五十八頃二十八畝ヲ餘ス。此餘分ヲ以テ富民ノ占有スル所ニ當テテ置クモ、前ノ屯田官田ヲ處分スレバ天下ノ田自ラ足ラザルコトハナイ。何モ限田均田ナドト紛々トシテ徒ラニ富民ヲ困苦スル事ヲ爲サズトモ井田ハ行ヒ得ルノデアルト。⁽²⁸⁾

是レガ宗義ノ井田實行案ノ骨子デアル。之レニ由レバ彼ハ從來ノ或一派ノ土地均分論者ノ如ク全ク貧富ノ懸隔ヲ絶滅セントスル者ニ非ズシテ、現在ノ富民ヲ苦シメザル範圍ニ於イテ貧民ヲ絶

無ナラシメントスル者デアル。即チ所謂一ノ不義ヲ行ハズシテ分配政策ヲ行ハントスル者デアル。從ツテ其實行ハ彼レノ言フガ如クシカク容易ナルモノニ非ザルガ如クデアル。即チ富民ノ所有地ヲ奪收セズ、屯田官田ノ額ノミヲ以テシテ、果シテ各貧民ニ五十畝ヅツノ田ヲ支給スルコトヲ得ルデアラウカ。是レハ事實ノ問題デアルガ頗ル困難ノコトデアラウト思ハレル。又彼ハ毎戸ニ分配スベキ五十畝ノ田ヲ公有トスルカ私有トスルカニ就キ何等説明スル所ナキモ、コレハ井田其者ノ性質上當然公有トシテ私有ヲ許サザル者ト見ルベキデアラウ。但コレハ屯田官田ノ處分ニ就イテイフコトデアルガ、既ニ人民ノ私有ニ歸セル土地ハ之ヲ如何ニスル考デアルカ。富民ノ私田ヲ奪收スルヲ不可トスルヨリ觀レバ、一面ニ於イテ土地ノ私有ヲモ認ムルモノデアルカ。或ハ土地ハ全部公有トシテ唯富者ニハ從來私有セシダゲノ面積ヲ占有スルコトヲ許スノデアルカ。此點甚明瞭ヲ缺クノデアル。

猶彼ハ當時ノ五十畝ヲ以テ周代ノ百畝ニ當ルトスルモ、其實明ノ一畝ハ周ノ一畝ノ約三倍餘ニ相當スルモノデアル。因ニ周ノ百畝ハ今日我國ノ面積ノ幾何ニ相當スルカトイフニ、黃鐘律管尺ニヨレバ周ノ一尺ハ我國ノ曲尺ノ約七寸二分ニ相當スルヲ以テ、方六尺ヲ一步トシ百步ヲ一畝トシテ計算スレバ、周ノ百步ハ正ニ我一町七反二畝二十四步ニ當ル。周ニ於イテハ之ヲ一夫五口ノ配當額トスルデアアルガ、宗義ハ一戸ノ配當額ヲハハリ之ニ等シクセントスルモノデアル。

扱此ノ如クニシテ井田ヲ復シタリトスルモ、尙賦稅ノ法宜シキヲ得ザレバ人民ノ困苦ハ依然トシテ救フコトヲ得ナイワケデアル。宗義ハ先ヅ民ノ暴稅ニ苦シム原因ヲ舉ゲテ三ツト爲シテ居ル。即チ積累シテ返ラザルノ害、稅スル所出ス所ニ非ザルノ害、田土等第ナキノ害ガソレデアル。

サレバ彼ハ今稅法ヲ定メントセバ須ラク積累以前ニ反ツテ之ガ制ヲ立ツベク、其土地出ス所ノ產物ヲ以テ租稅ニ當テ、又土地ヲ丈量シテ等級ヲ定ムベシトイヒ、而シテ稅率ハ收穫ノ二十分ノ一ヲ徵收スルヲ以テ適度トナシ、ソレニテ國用ノ足ラザル患ナシト言ツテ居ル。⁽²⁹⁾

田地ノ等級ヲ定ムル方法トシテ彼レノ説ク所ヲ見ルニ、田地ヲ其肥瘠ニ應ジテ五等ノ階級ニ分タントスルモノデアル。即チ上者ハ從來ノ如ク二百四十歩ヲ一畝ト爲シ、次ハ三百六十歩ヲ一畝ト爲シ、次ハ四百八十歩ヲ一畝ト爲シ、次ハ六百歩ヲ一畝ト爲シ、下者ハ七百二十歩ヲ以テ一畝ト爲ストイフノデアル。カクシテ田地ノ等級ヲ稅額ノ重輕ニヨラズシテ丈量ノ廣狹ニ在ラシメタナラバ、不公平ナルモノ自ラ公平ニ歸スルトイツテ居ル。⁽³⁰⁾ 然ルニ此方法ヲ採ル時ハ前ノ一戸五十畝ヅツ分配スルトイフ意見ガ弱レハシナイカト思ハレル。即チ萬曆六年調ノ田地面積ハ一畝二百四十歩トシテノ畝數デアル。若シ彼レノ言フガ如ク一畝ノ内容ヲ二百四十歩乃至七百二十歩トナス時ハ、獨リ富者ノ田ヲ奪フノミナラズ天下ノ田ヲ盡シテモ一戸五十畝宛チ分配スルコトハ恐ラク不可能ノコトトナルデアラウ。(尤是非彼レノ前論ヲ成立セシメントセバ唯一戸平均五十畝ノ數ヲ減ズレバヨイノデアル。前ニモイヘル如ク明ノ一畝ハ周ノ一畝ノ約三倍餘ニ相當スルモノナレバ、周ノ百畝ト同面積ノ田ヲ與ヘントセバ一戸三十畝ヲ與フレバ可ナルワケナリ)。要スルニ彼レノ土地政策ハ甚粗ナルモノアルヲ免レザルモ、唯其意ノ存スル所ハ想見スルニ難カラザルモノデアル。

次に彼ハ曰ク『天下ヲ治ムル者既ニ其賦斂ヲ輕クスルモ、民間ノ習俗未ダ去ラズ、蠱惑除カズ、奢侈革マラザレバ、民仍ホ富マシムベカラズ』⁽³¹⁾。富者ノ私田ヲ奪收シテ之ヲ困苦セシムベカラズトセル彼モ、富者ノ奢侈ヲ禁止スル策ヲバ取ラザルベカラズトスルモノデアル。所謂習俗トハ何カト云フニ婚禮喪葬ノ際ニ於ケル裝資設祭宴會等ノ贅澤ニシテ、富者之ヲ以テ相高ブリ貧者又之ニ倣ハント勉ムル者デアル。蠱惑トハ佛及ビ巫ニ惑溺スルヲ謂フ、此兩者ニ對シテ資財ヲ投ズル

(29) 田制三
(30) 田制三
(31) 財計三

モノ民ノ資産ノ半ニ達スル。奢侈トハ倡優酒肆機坊デアル、倡優ノ費一タニシテ中人ノ産、酒肆ノ費一頓ニシテ終年ノ食、機坊ノ費一衣ニシテ十夫ノ煖。此等ハ孰レモ皆不生産的ノ消費デアル。之ヲ革ムルニ如何スベキカトイフニ是レハ結局教化ト禁制ニ待ツノ外ハナイト爲シテ居ル。曰ハク『之ヲ治ムルニ本ヲ以テシ、小民ヲシテ吉凶一ニ禮ニ循ハシメ、巫ヲ投ジ佛ヲ驅ラシム。コレ吾所謂學校ノ教明ニシテ後可ナリ。之ヲ治ムルニ末ヲ以テシ、倡優禁アリ、酒肆禁アリ、織物ハ布帛ヲ除ク外皆禁アリ。此古聖王本ヲ崇ビ末ヲ抑ユルノ道ナリ』ト。⁽³²⁾斯クシテ民用ニ切ナラザル消費ヲ革メテ茲ニ始メテ民ヲシテ富マシムルコトヲ得トスルノデアル。且彼ハ世儒ガ農ヲ以テ本トスル一方、工商ヲ末トシテ妄リニ之ヲ抑ヘントスルヲ非難シ、工ハ聖人ノ來サント欲スル所、商ハ又其途ニ出デenkoトヲ願フモノ、イツレモ生産的ニシテ蓋シ皆本デアル。聖王ノ本ヲ崇ビ末ヲ抑フルト云フハ不生産的消費ノ害ヲ除ク方法ヲイヘルモノニシテ、即チ教化ト禁制ニヨリ奢侈ノ風ヲ掃除セントスルノ意ニ外ナラズト言ツテ居ル。⁽³³⁾固ヨリ古意ニ非ズト雖、以テ宗義ノ思想ヲ窺フニ足ル。

猶彼ハ當時貨幣制度統一ヲ缺キタルト、且金銀貨幣ノ缺乏セルニ拘ラズ賦税及ビ市易ニイヅレモ金銀貨ヲ要求スルトニヨリ、人民ノ非常ニ窮境ニ陥レルヲ救済セントシ、幣制ヲ統一シ金銀貨ヲ廢シテ銅錢ノミヲ唯一ノ法貨トシ、又不換紙幣濫發ノ弊ヲ改メ、此銅錢ヲ準備金トシ兌換紙幣ノ發行ヲ許サバ、銅錢ノ携帶ニ不便ナル病ヲ除クコトヲ得ント言ツテ居ル。而シテ其金銀貨ヲ廢スルコトニヨツテ、彼ハ亦社會上ニ甚貧甚富ノ家ナカラシムルコトヲ得ルト考ヘテ居ル。⁽³⁴⁾是レハ

(32) 計三
(33) 計三
(34) 計一

固ヨリ徹底セル政策トハ思ハレスガ、唯之ニ由ツテ彼ガイカナル政策ヲ考フルニ當ツテモ、成ルベク貧富ノ懸隔ヲ和ゲントスル用意ノ存スル所ヲ觀取スルコトヲ得ルノデアル。

五

宗羲ハ猶此外ニ官吏登庸法ノ改革、軍制ノ完備、差役ノ復舊等種々ノ議論ヲ爲シテ居ルガ、一之ヲ紹介スルコトハ煩瑣ニ亘ルヲ恐ルルガ故ニ今ハ總ベテ省略スルコトトスル。

擬以上述べ來リタル宗羲ノ意見ヲ一瞥スレバイカニモ詭激ナル思想ヲ含ンデ居ルガ如クニモ見ユルノデアルガ、併シ支那ニ在リテハ斯カル思想ハ敢テ珍ラシカラザル所ニシテ、古來支那ノ思想界ヲ支配セシ儒教ノ教義其者ガ本來民本主義的ニシテ且社會主義的ノモノデアル。中ニモ儒教ノ經典ノ一トシテ尊崇スル『孟子』七篇ノ議論ハ最ヨク其精神ヲ發揮シタル者ニシテ、宗羲ノ意見モ其根本ニ於イテハ畢竟『孟子』ノ思想ヲ祖述セシ者ニ外ナラスノデアル。⁽³⁵⁾『孟子』ニ『民ヲ貴シト爲ス、社稷之ニ次グ、君ヲ輕シト爲ス』ト言ヒ、『一夫ノ紂ヲ誅スルヲ聞ク、未ダ君ヲ弑スルヲ聞カザルナリ』ト言フガ如キ、又『恒産無キモノハ因ツテ恒心無シ』ト爲シ、五畝ノ宅百畝ノ田ヲ天下ノ民ニ均分スベシト主張スルガ如キ、宗羲ノ思想ニ比シテ孰レカ激、孰レカ緩。清朝ニ於イテ嘗テ『明夷待訪錄』ノ刊行ヲ禁ジタルハ一ニハ節ヲ守ツテ已ニ仕ヘザルヲ憎ムノ餘ニ出デタルモノナランモ、亦一ニハ思想取締ノ意味モ含マレテ居タ事ハ明デアル。而モ思想ノ方面ヨリイハバ、『孟子』ヲ公行セシメテ『明夷待訪錄』ヲ禁止スルハ、是レ適々頭ヲ藏シテ尾ヲ露ハスノ笑ヲ買フニ足ル拙策デアツタ。否寧ロ之ヲ禁止セルガ爲メニ却ツテ其書ノ弘布ヲ速ナラシメ、其思想隨傳ニ

(35) 宗羲ノ原君原臣ノ説ハ宋ノ鄧牧心ノ君道吏道ノ二篇ヨリ得來リタルモノト爲スモノモアレド、宗羲以前斯カル民本思想ヲ唱フルモノ獨リ鄧氏ノミニ非ズ。且其思想ノ全體ヨリ觀テ孟子ニ原本スルモノトスルヲ尤妥當ナリト信ズ。鄧牧心ニハ『伯牙琴集』ノ著アリ。

カラ添へ、新ニ輸入セル西洋思想ト相呼應シテ遂ニ政治上ニ於イテハ專制君主制ヲ倒シ、經濟上ヨリモ根本的ニ社會改革ヲ試ミントスルガ如キ革命思想ヲ激成シ、爲メニ清朝ヲシテ其末路ニ急ガシムルコトトナツタ。此ノ如キハ古今東西多クアル事例デアツテ、蓋シ自ラ作セル孽演ルベカラザルモノト謂フベキデアラウ。

尤人若シ宗義ガ以上ノ如キ思想ヲ挾持スルノ故ヲ以テ、彼レノ人物ヲ推シテ極メテ冷靜ナル空想家ト爲シ、其君主ヲ視ル路人ノ如ク、人倫ヲ輕ンズル弊履ノ如クスル者ト爲シタナラバソハ大ナル誤デアアル。余ハ茲ニ彼レノ人物ヲ髣髴セシムル爲メニ彼レノ行事ノ二三ヲ摘錄シテ以テ此稿ヲ了ラウト思フ。宗義ノ父ハ尊素ト曰ヒ學問氣節ヲ以テ顯ハレタ人物デアツタガ、御史ト爲ツテ當時政ヲ亂ル宦官ニ反對シ、同志ノ士ト共ニ獄中ニ死シタ。時ニ宗義年十七、其後二年ヲ經テ莊烈帝位ニ即クニ及ビ、彼ハ長錐ト草蔬トヲ袖ニシ都ニ入ツテ父ノ冤ヲ訴ヘタ。然ルニ其時朝廷ノ形勢ハ一變シ宦官ノ黨多クハ處罰セラレ、難ニ死セシ者ニハ夫々贈官ノ沙汰ガアツタガ、彼ハ之ヲ以テ足レリトセズ朝廷ニ請ウテ宦官ノ餘黨ノ猶生存スル者ト對決シ、其時袖ニセシ長錐ヲ以テ宦官ノ一人ヲ擊ツテ血ヲ流シ、他ノ一人ノ鬚ヲ拔キテ歸ツテ之ヲ父ノ墓前ニ供シタルコトアリ。莊烈帝ヲシテ『忠臣孤子甚ダ朕ガ懷ヲ惻マシム』ト嘆ゼシメタノハ即チ此時ノ事デアアル。明ノ亡フルヤ監國魯王ニ從ヒ頻リニ回復ヲ劃策シテ成フズ、備サニ辛苦艱難ヲ嘗メ、或時ハ馮京第二從ウテ日本ニマデ援兵ヲ乞ヒニ來タトイフ事モ傳ヘラレテ居ル⁽³⁶⁾。其間清朝ガ彼ノ母ヲ捕ヘントスルノ說ヲ聞キテハ危險ヲ冒シテ鄉里ニ歸リ、弟宗炎ガ縛セラレ將ニ刑セラレントスルヲ聞キテハ潛行

(36) 宗義ノ母は魯王の妃で、明の亡後、日本に渡り、その母を捕へんとした清兵に抵抗した。宗義は母を救うために、清兵に襲撃された。この事件は、宗義の母の忠義を称するものとして、後世に傳へられた。宗義の母は、魯王の妃で、明の亡後、日本に渡り、その母を捕へんとした清兵に抵抗した。宗義は母を救うために、清兵に襲撃された。この事件は、宗義の母の忠義を称するものとして、後世に傳へられた。

シテ計ヲ以テ之ヲ脱レシメタルコトナドモアル。全祖望ノ言フ所ニヨレバ『明夷待訪錄』ノ初稿成ルノ年即チ彼ノ五十三歳ノ時マデハ、彼ハ猶機會サヘアラバ明朝ヲ回復セントスルノ念ヲ斷タザリシト云フ。其後志ヲ變ジテ心ヲ學問著述ニ專ニスルコトトナツタガ、而モ清朝ノ徵聘ヲ斥ケテ遂ニ仕ヘズ、明ノ遺臣トシテ其生涯ヲ終ツタノデアツタ。以上ノ事實ニヨツテ之ヲ觀レバ、誰カ彼ヲ目シテ熱腸ノ士ニ非ズトイフコトガ出來ヤウカ、誰カ彼ヲ目シテ忠孝ノ人ニ非ズトイフコトガ出來ヤウカ。蓋シ彼ノ如キ熱腸ノ士忠孝ノ人ニシテ、始メテ能ク彼ガ如キ眞摯ナル意見ヲ吐露スルコトヲ得ルノデアラウ。『明夷待訪錄』二十一篇ハ實ニ彼ガ天下ヲ憂ヒ君ト民トラ思フ至誠ノ進リデアル。道樂ヤ生活ノ方便ニ革命ヲ提倡スルガ如キ輕薄者流ノ脚下ニモ寄り附クヲ許サスト同時ニ、似而非ナル忠孝節義ニ天下ノ耳目ヲ錮セントスル僞君子輩トモ正ニ白雲萬里ヲ隔ツルモノト謂フベキデアル。(完)